

がんばってます神戸の農業

No.13 八多町

多彩な農産物の生産が行われ、多様な農村地域がある神戸市の農業委員の地元を順次紹介していきます。

今回は神戸市北区の八多町と、そこでがんばっている農家さんをご紹介します。

○八多町

神戸市北区の中心部に位置し、南・西・北の三方が山に囲まれ、八多川・屏風川沿いに平野が広がる農村地域です。

灘五郷の酒米どころ、米作り本位の農村として発展してきた地域で、酒米の山田錦をはじめ、コシヒカリ、キヌヒカリ等の稲作が盛んです。また、野菜、酪農の他、観光農業のいもほり、いちご栽培など、多岐にわたる農業を展開し、最近では都市近郊の農村地域に姿を変えています。

平成6年には、田園コミュニティパークとして整備された「八多町公園」と「八多ふれあいセンター」がオープンし、地域の憩いの場として活用されています。また、地域の有志で結成された和太鼓グループ【「八多太鼓」(大人の部と少年の部「虎打舞」)】が有名で、町内はもとより、市や区のイベントで演奏するなど、活発な活動を行っています。



八多町の位置

○がんばる農業者 きたしば 北芝 みつぶ 光展さん

八多町で農業を始めて今年で11年目を迎えた北芝さん
農業に対する考え方やこだわり等について伺いました。

—農業をされていて大変だったことは？

・人材確保ですね。現在は私と妻、父の3人が主体となり経営を行っていますが、作業の内容や時期によってはどうしても人手が必要になる場面があります。しかし、農業分野の人材派遣を行っている会社はなかなか無く、当初は人手を探すのに苦労しました。現在は、シルバー人材を活用しており、常時1~2名の方にきていただいています。作業時間や体調等に気をつけていただきながら、日々の作業を行っています。

—農業をされていてよかったことは？

・地元の方とのつながりができたことです。会社勤務をしていた頃は、集落の集まりにもなかなか参加できなかったのですが、農業を始めてから、そういった集まりなどを通じて、様々な御縁に巡り会えたとともに、勉強になることも多いです。

・また、全ての商品は直売所で販売しているので、お客様の反応をダイレクトに感じることで、面白みや励みにもつながります。遠方から来ていただいた方の「店が開いて良かった」、「やっと買えた」といった声が聞けると嬉しいですね。

—これからがんばっていききたいことは？

・農業は、経験や勘に基づいた、言葉に表せない栽培技術やノウハウなどが多いと言われています。しかし、これまで農業を続けてきた中で、農作業のうちの大部分は、「誰がやっても同じようにできる」作業が多いことに気付きました。そういった作業をなるべく単純化し、人に任せ、自分自身は専門的な作業に集中することで、効率的な生産体制を整えるとともに、より質の良い農産物をお客様に提供していきたいです。



~Profile~

1963年10月生まれ。2006年より農業経営を開始。主な栽培品目は、イチゴ(草姫)、水稲。



今回インタビューにご協力いただいた町垣農業委員(左)、北芝さん(中央)、西浦農業委員(右)